

前橋が第二の故郷に まちとひと、つながる、シェアハウス

馬場川通りにある学生専用のシェアハウス、「シェアフラット馬場川」。ここに住む学生がどんな生活をしているのか、ワカモノ記者が取材しました。

担当は、新井有加・川田和樹・品川亜衣・船戸春香

☎ まちなか再生室 ☎ 027-230-8866

市民が作る
市民編集
のページ
Vol.118



REPORTERS OF YOUNG FOLK

とのこと。他の人のそんな姿を見て「自分もやらなきゃ」と刺激を受けるそうです。お互いを意識し合い、切磋琢磨できるのもシェアハウスの良いところかも。



地域での活動に参加

このシェアハウスは市が家賃の一部を補助する代わりに、入居者が月に8時間程度、地域に関わる活動を行うことを条件にしています。武田さんは、町内の祭りで屋台のお手伝いをしたとか。学生にとって地域の

活動に関わることは、人とのつながりを感じられる良い経験になります。大橋さんは「貴重な大学の4年間。いろいろな活動をとおして人の輪を大きくする努力をしてほしい」とエールを送ります。

空きスペースの活用×若者

シェアフラット馬場川は商店街の中心で長年空きビルであった物件を、低コストで改装することで完成しました。対象者を学生に限定することで街の活性化につなげています。

「なかなか大きな変化はありません

新しい住まいの形として注目されているシェアハウス。前橋にはワカモノが住むシェアハウスがあるらしい。ということで、シェアフラット馬場川を訪問。入居者で前橋工科大4年の深野真垂留さんと群馬大1年の武田千穂さん、設立に大きく関わり、入居する学生をサポートする大橋慶人さんに話を伺いました。

シェアフラット馬場川って？

シェアフラット馬場川は馬場川通りにある学生専用のシェアハウス。全11部屋の個室と、入居者が集うサロンやランドリーコーナー、風呂、駐輪場など、生活をしていく上で必要なものがそろっています。今住んでいる学生は全員県外出身者だそうです。通う大学や年齢もさまざまです。



「若者が街にいただけで明るい気持ちになりますね」と大橋さん

んが、ちょっとずつ、若い人が街に出てくるようになってきたと感じています。この一連の流れをこれからも続けたいです」と大橋さんは話します。学生などの若者がまちなかに住んで前橋の良さに気付き、魅了され、将来にわたって前橋に関わってくれたらいいですね。

01.机やベッドなどがそろった居室
02.馬場川通りと中央通りに面した立地
03.2階のサロンはみんながくつろぐ場



「おかえり」が聞こえるうれしさ

独り暮らしだと家に帰ればもちろん1人。しかしここでは、帰ってきた時に誰かしらがいます。「おかえり」って声を掛けてもらえるのがうれしいですね」と深野さん。「いつも誰かがいる安心感がいいよね」と武田さんが続きます。同居人が悩み事の相談相手になってくれることもあるそう。頼りになる同年代がそばにいるということは、離れて暮らす親も安心かもしれません。

お互いを高め合う場にも

ふと辺りを見ると、そこには英単語帳が。深野さんによると、入居者の一人が就職のために勉強をしてい

家族でも友達でもない、同世代の同居人と学生生活を共有できるなんて、何だかうらやましいです。(新井)



若い人に定住してもらいたい、まちなかはこれから若者が活躍していく場であるということが伝わってきました。(船戸)



シェアしているのは住居だけでなく人とのつながり。シェアにまみれて充実した学生生活を送っているようです。(川田)



もっと早くこのシェアハウスの存在を知っていたら入居を考えたかも。(品川)



編集後記